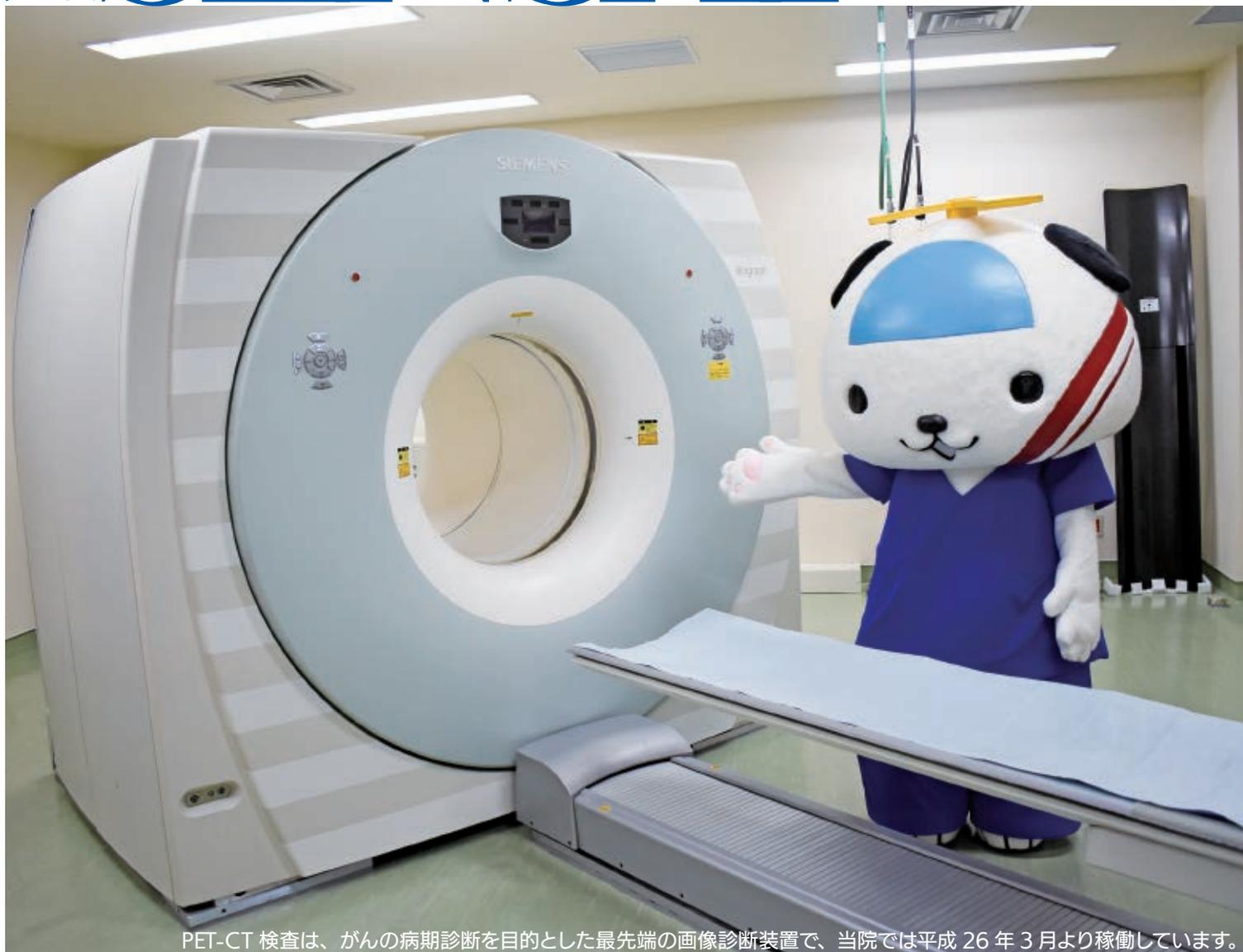


専齋 **SENSAI**



PET-CT 検査は、がんの病期診断を目的とした最先端の画像診断装置で、当院では平成 26 年 3 月より稼働しています。

診療科紹介

Vol.24 血液内科

TOPICS

- ・ 釘島ゆかり先生、日本糖尿病学会・妊娠学会学術奨励賞「大森賞」受賞
- ・ OSCEを終えて

薬剤部だより Vol.2

看護部だより Vol.8

行事予定

春の医学生見学会のお知らせ

健康フェスタ中止のお知らせ

SENSAI ごはん

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Vol.24

血液内科



当科の診療について

現在、当院の血液内科は、統括診療部長の吉田真一郎先生を中心として、スタッフ5名で診療を行っています。大村市内だけでなく、県央地域、島原地域から広く患者さんが受診され、血液内科における地域医療の中心的役割を担っております。2018年には年間552名の患者さんが入院しました(表1)。造血器腫瘍は、他の腫瘍と比較すると頻度が低いように思われますが、高齢者を中心に年々増加傾向にあり、けっして稀な病気ではありません(図1、図2)。

外来診療では、通院での抗がん剤治療を積極的に行っています。その他、入院治療後のフォローや、貧血、血球減少・増加、リンパ節腫大、出血素因、血栓素因の原因精査などを行っています。上記のような症状が持続するような患者さんがおられましたら、ぜひ当科へご紹介ください。特に血球減少が高度な場合は急を要する可能性がありますので、速やかにご相談ください。血球減少の原因や造血器腫瘍の有無を確認するため、必要に応じて骨髓検査を実施することがあります。

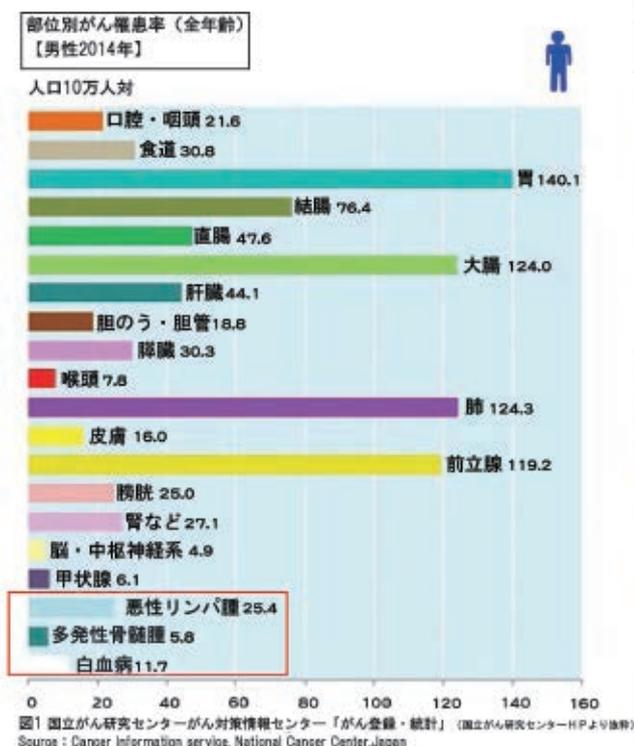
血液内科は、血液の病気全般を診る科です。血液の病気とは、造血器腫瘍、貧血性疾患、血小板凝固異常、免疫異常に分類されます。

疾患名	患者数(うち新規入院)
1) 非ホジキンリンパ腫	255 (57)
2) 多発性骨髄腫	60 (13)
3) 成人T細胞白血病・リンパ腫	48 (5)
4) 急性骨髄性白血病	35 (8)
5) 骨髓異形成症候群	23 (9)
6) 特発性血小板減少性紫斑病	10 (9)
7) ホジキンリンパ腫	9 (4)
8) 急性リンパ性白血病	9 (1)
9) 慢性リンパ性白血病	7 (1)
10) 慢性骨髄性白血病	4 (2)

表1 2018年の入院数(上位10疾患)

疾患名	症例数
1) 血縁者間同種造血幹細胞移植	37
2) 臍帯血移植	21
3) 自家末梢血幹細胞移植	65

表2 特殊治療(2002年~2018年の累積値)



造血器腫瘍

悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄増殖性疾患（真性多血症など）、骨髄異形成症候群、成人T細胞白血病リンパ腫などが挙げられます。腫瘍細胞そのものを標的とした抗体薬、分子標的薬の開発など、治療の進歩が著しい領域です。

悪性リンパ腫は、リンパ球ががん化した腫瘍です。悪性リンパ腫の種類により治療法は若干異なりますが、初回治療ではCHOP療法という、抗がん剤の3剤とステロイドを併用した化学療法が多く選択され、必要に応じて分子標的薬と併用されます。急性骨髄性白血病は、造血幹細胞に近い領域の細胞ががん

化した腫瘍です。寛解導入療法という、2剤の抗がん剤を組み合わせた治療を行います。入退院を繰り返して、治療を継続します。65歳以下の方は、造血幹細胞移植を計画される方もいます。多発性骨髄腫は、抗体を作り出す形質細胞ががん化した腫瘍です。ボルトゾミブという皮下投与される製剤やレナリドマイドという内服薬とステロイドを組み合わせた治療が行われます。慢性骨髄性白血病では、特効薬である、チロシンキナーゼ阻害薬（イマチニブ、ニロチニブ、ダサチニブ）の内服を開始します。これらはいずれも初回は入院での治療となりますが、安全を確認できれば、外来での治療に移行して、治療を継続していきます。

貧血性疾患

頻度の多い鉄欠乏性貧血や、ビタミンB12欠乏性貧血（DNAの合成に必要なビタミンB12が欠乏することで、血液細胞が成熟できず、貧血に至る病気）、その他、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、骨髄異形成症候群など診療しています。

血小板凝固異常

特発性血小板減少性紫斑病や血友病などが挙げられます。

免疫異常

HIV感染症、後天性免疫不全症候群などが挙げられます。

釘島ゆかり先生、日本糖尿病学会・妊娠学会学術奨励賞「大森賞」受賞

産婦人科部長 安日 一郎

2018年11月23-24日、横浜で開催された第34回日本糖尿病学会・妊娠学会において、当院産婦人科における354例の妊娠糖尿病既往女性の分娩後の糖尿病発症とその発症関連リスク因子について研究した釘島ゆかり先生(2015年9月当院退職、現在、新宿レディースクリニック勤務)の論文(Risk factors associated with the development of postpartum diabetes in Japanese women with gestational diabetes. Kugishima Y, et al. BMC Pregnancy and Childbirth 2018: 19)が、多数の応募論文の中から映えある「大森賞」に輝き表彰されました。「大森賞」は、日本国内における「糖尿病と妊娠」に関する最優秀学術論文を

表彰するものです。この受賞は長崎医療センターで日々臨床に励む仲間の賜物と、受賞賞金10万円は「気前よく」全額当院産婦人科にご寄付いただきました。



TOPICS

OSCEを終えて

臨床研修医(2年次) 本多 明日美

2019年1月26日にOSCE(客観的臨床能力試験)が行われました。指導医の先生方に心肺蘇生、外科処置、胸部単純X線、心電図、身体所見の5項目の評価をして頂きました。

試験は普段通りと心掛けていましたが、緊張で手が震えたり、何度も確認した胸部単純X線の系統的な読影が出来なかったりと悔しかったです。試験後のフィードバックでは自分の足りない部分を確認でき、出来ているところは自信を持ってました。

勤務終了後に試験に向けて同期とした勉強は、とても楽しく為になり、切磋琢磨しながら過ごした2年

間を懐かしく感じると共に、研修修了が少し寂しくなりました。

このOSCEを通して初期研修2年間で振り返ると、指導医の先生方、コメディカルの方々や患者さんになくさんの事を教えて頂きました。まだまだ未熟者ですが、感謝の気持ちを忘れず、この2年間で学んだことを今後の自分のキャリアに生かしていこうと思います。

寒い中朝早くからOSCEを開催してくださった指導医の先生方、教育センター、後輩の皆さん、ありがとうございました。最後に、2年間一緒に頑張った同期のみんな、これからももっと頑張ろう!



薬剤部だより

Vol.2

外来化学療法センターにおける薬剤師の役割

薬剤部 調剤主任 谷口 潤

がん化学療法は新規抗がん剤や支持療法の目覚ましい開発により、治療が複雑化しており管理体制には専門的な知識が必要です。また、抗がん剤はハイリスク薬に含まれることはもちろんですが、他の薬物とは異なり効果発現と副作用発現の領域が近く、安全に治療を継続するためには患者さんの副作用発現状況を管理し、適切な対応をすることが極めて重要です。

現在、我が国において日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、臨床腫瘍薬学会が高度な薬物療法に対して知識・技術を備えた専門的な薬剤師を養成するために、がん認定・専門薬剤師の資格制度を有しています。当薬剤部においても6名の薬剤師ががんに関する認定資格を取得しており、さらに若手の薬剤師も認定取得を目指し日々研鑽しています。薬剤師もメディカルスタッフの一員として、チーム医療に参画し、専門的な知識を活かし、良質な医療を提供するために貢献する必要があります。

外来化学療法センター及び薬剤師外来においては現在1名の薬剤師が専従で業務に従事しています。外来化学療法センターでは注射薬を含むがん化学療法患者に対して、薬剤師外来は内服抗がん剤(S-1、Cape、FTD/TPI、REG等)、入院初回治療、免疫チェックポイント阻害薬の患者さんに対して服薬指導を実施しています。主な業務内容はレジメンチェック、患者指導、副作用に対する支持療法の提案、内服薬

(DEX、PSL、定期内服薬等)の確認と配薬、他のスタッフからのレジメン・支持療法に関する相談等です。外来化学療法センターで治療を行う患者数は年々増加しており、毎月平均380名程度の患者さんに服薬指導を実施しており、極めて多忙な日々を送っています。

近年、免疫チェックポイント阻害剤と殺細胞性抗がん剤の併用療法の開発が進行しており、今後さらに副作用の判別や対応が複雑化してくることが予測されます。薬物療法の専門家として一定水準以上の実力を有し、医療現場にて活躍しうる臨床薬剤師を目指していきたいと思っております。



看護部だより Vol. 8

がん化学療法看護

副看護部長 西 紗津樹

がん化学療法は、抗がん剤投与によりがんの治癒、進行の抑制を目指すだけでなく、がんに伴う痛みなどの症状を緩和し、QOL向上を目的としています。看護師は、がん化学療法の現場に直接深く関わっているため、がん化学療法薬の特性を理解し、安全・確実・安楽な投与管理を行う責任があります。

また、治療計画を理解し、治療中の患者に起こる副作用や苦痛を最小限にすること、その後の生活に向け、患者に応じた支援を行い、がんを患いながらもその人らしく生活できるためのセルフケア支援を行っています。がん化学療法認定看護師を中心に、治療内容や投与スケジュール、安全な投与について理解を深め、日々看護に携わっています。



1 治療前から投与スケジュール、投与後に注意することなどパンフレットを用いて説明をします



2 レジメン(抗がん剤投与時の計画書)と医師の指示をもとに、投与日・投与量等を再確認します



3 清潔・安全に抗がん剤を取扱います



4 点滴の管理を行い、抗がん剤の種類によって副作用の出現がないか全身状態を観察しています

医療センター講演・研修・テレビ出演等(3月)

(敬称略)

臨床研究センター/長崎大学連携大学院セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
3月5日(火)	17:00~18:30	人材育成センターあかしやホール	がんゲノム医療による 消化器癌化学療法の展望	九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座・教授:馬場英司

がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
3月6日(水)	18:00~19:30	臨床研究センター会議室	消化器症状 抗がん剤の適正使用の取組み(TS-1)	がん化学療法看護認定看護師:村上摩利 外来がん治療認定薬剤師:青木孝喜

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。

春の医学生見学会のお知らせ



春の医学生見学会を開催いたします。
当院の初期研修医をご検討いただいている医学生の皆様、一度見学にいらっしやいませんか。お気軽にお問合せください。

【対象】

医学部4・5年生

【見学受け入れ日】

2019年2月25日(月)~3月22日(金) ※平日のみ

【募集学生人数】

1日に5名程度。夜間見学は1日3名まで。

【応募期間】

随時行っております。

【お申し込み方法】

当院ホームページ(<https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/>)をご覧ください。

健康フェスタ中止のお知らせ

2019年3月2日(土)に開催予定としておりましたが、「平成30年度健康フェスタ」は、インフルエンザ感染拡大が懸念されることから、誠に残念ではございますが、中止することを決定させていただきました。

開催を楽しみにされていた方、また関係者様には心よりお詫び申し上げます。



SENSAIごはん



長崎医療センター監修
“極旨香だし”使用

冬野菜と 鶏のシチュー

ブロッコリーが
煮崩れしないように、
予め分けて加熱したよ。
ビタミンCは水溶性
(水に溶けやすい性質)なので、
茹でるよりも、蒸したりレンジで
チンしたりする方が、
栄養の損失は少なくなるよ!



材料(5皿分)

- 鶏もも肉 350g
- ブロッコリー 1/2株
- かぶ 2個
- 人参 1/2本
- たまねぎ 1/2個
- しめじ 100g
- サラダ油:大さじ 1/2
- 極旨香だし 1袋
- シチュールウ 1/2箱
- 牛乳 200ml



作り方

- 1 ブロッコリーは小房に分け、レンジで予め加熱しておく。
その他の具材を適当な大きさにカットする。
- 2 サラダ油で鶏肉を炒める。
- 3 かぶ、人参、たまねぎ、しめじを投入して炒めた後、極旨香だしと分量の水を入れる。
- 4 具材に火が通ったら、いったん火を止めてルウを溶かし入れる。
- 5 再び加熱し、牛乳とブロッコリーを加えて一煮立ちさせる。

管理栄養士 中村より



旬の野菜をたっぷり使用したシチューです。ブロッコリーはビタミンCを特に多く含んでおり、その量はレモンの約1.2倍になります。ビタミンCは抗酸化作用があるほか、コラーゲンの生成や鉄の吸収にも関わります。またビタミンCはストレスにより消費が促進されてしまうため、毎食摂取することがストレス対策としてもオススメです。

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対には断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する